

2. 全死因における死亡の状況

(1) 全国の死亡の状況の年次推移

平成 27 年の全国の年齢調整死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)は、男 486.0、女 255.0 であり、平成 22 年と比較すると、男は 58.3 ポイント、女は 20.0 ポイント低下している。男女とも昭和 22 年以降低下傾向は続いている。(図1)

また、粗死亡率(人口 10 万対、以下同じ。)をみると、男女とも昭和 30 年代から 50 年代までは、ほぼ横ばいあるいは若干の低下となっていたが、60 年代に入ってから上昇傾向が続いている。

年齢調整死亡率が低下しているのに対して、粗死亡率が上昇しているのは高齢化の影響による。(図2)

図1 年齢調整死亡率の年次推移

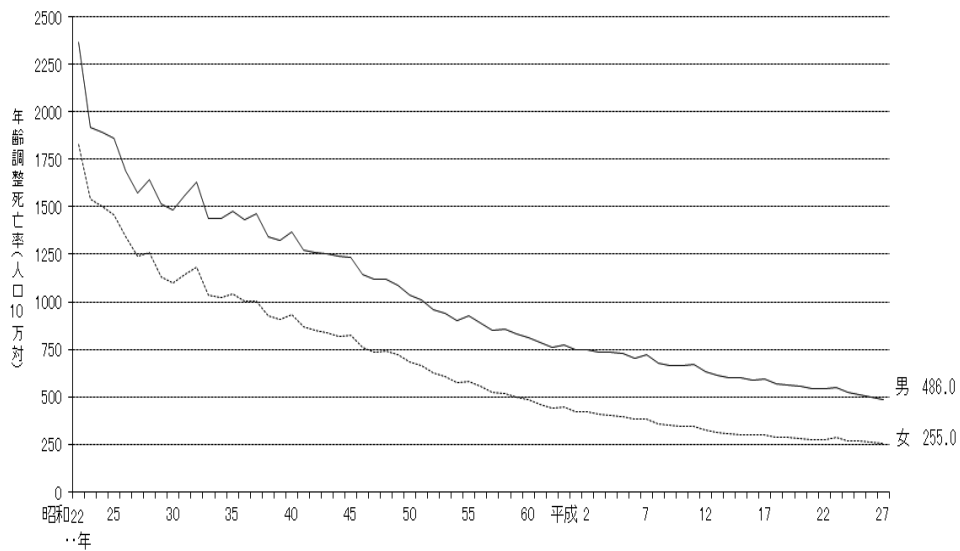
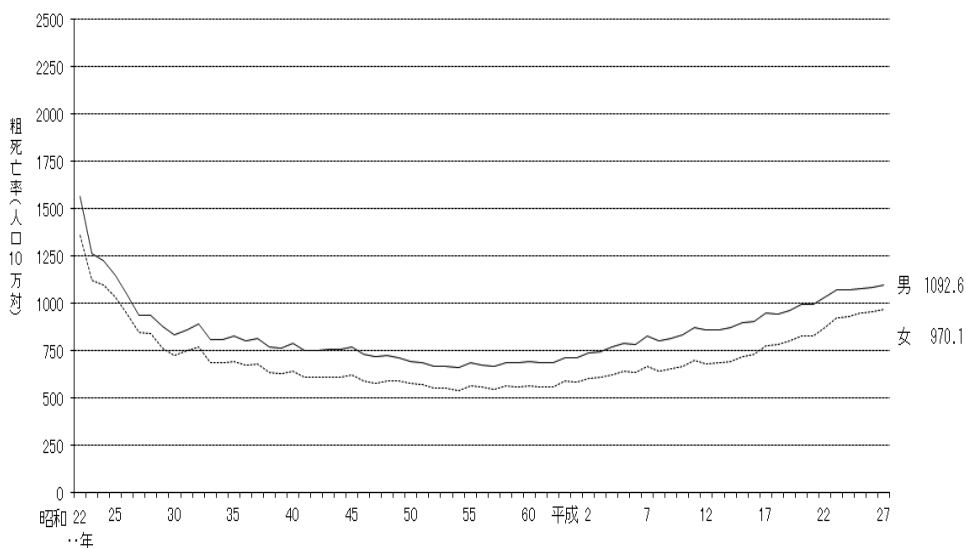


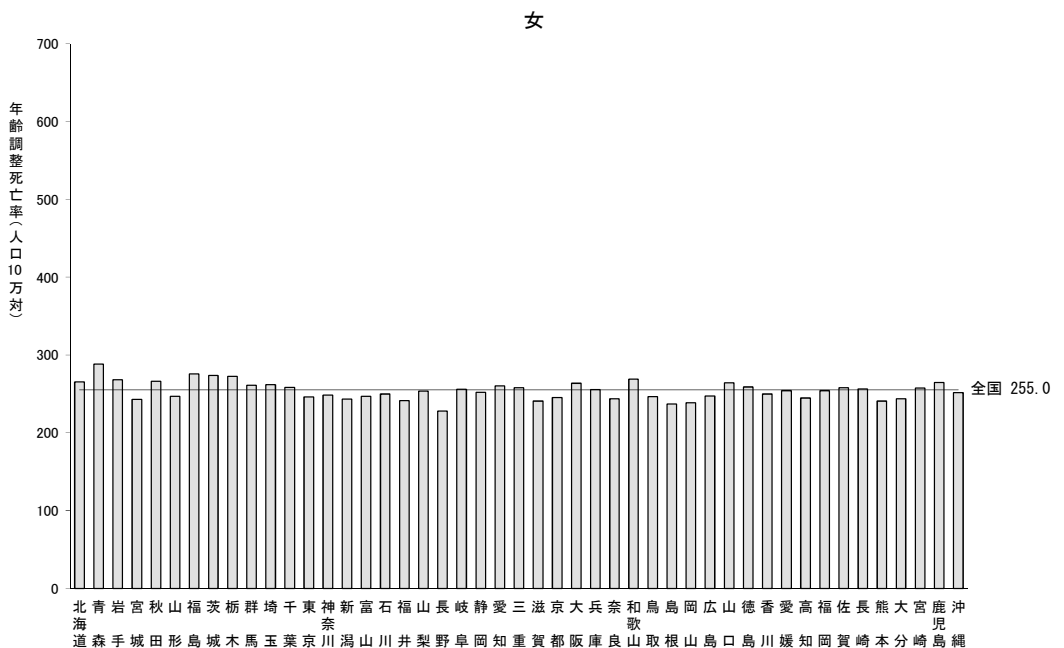
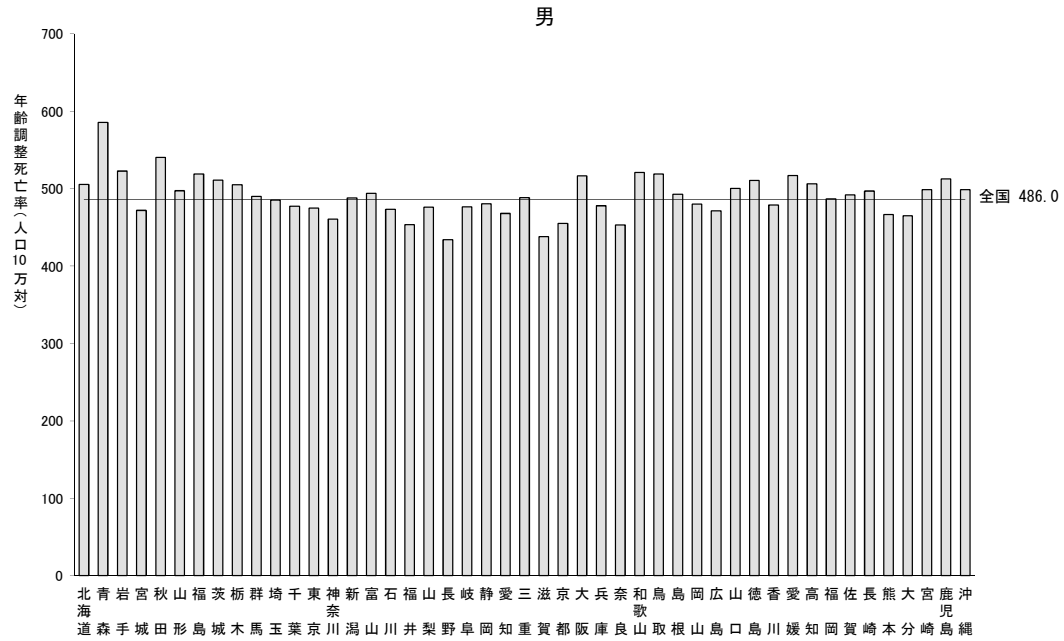
図2 粗死亡率の年次推移



(2) 都道府県別にみた死亡の状況

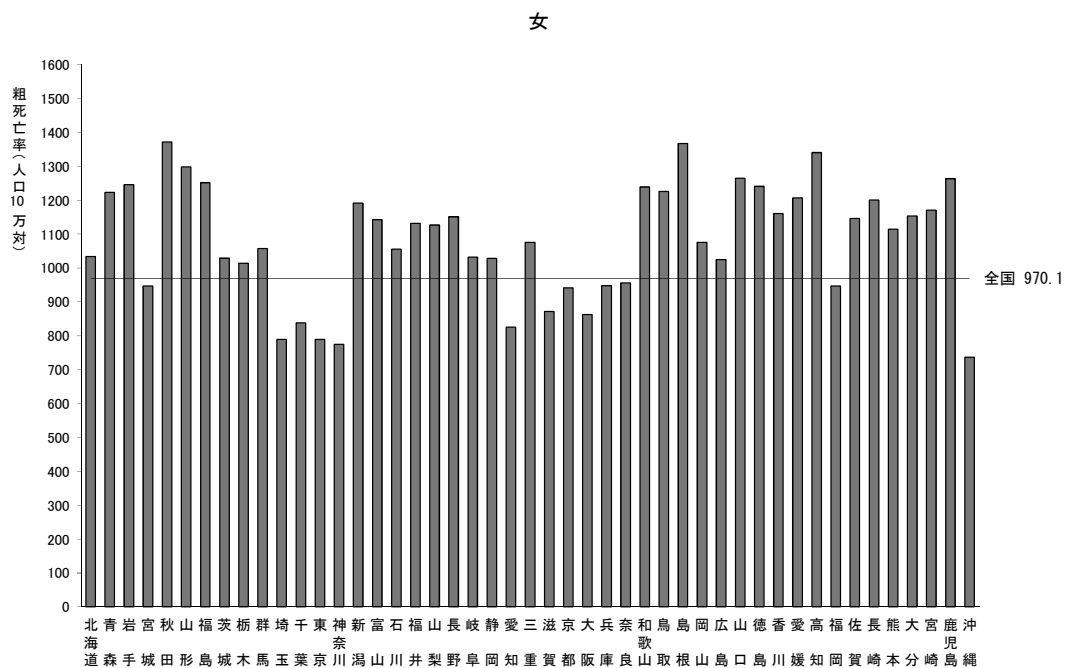
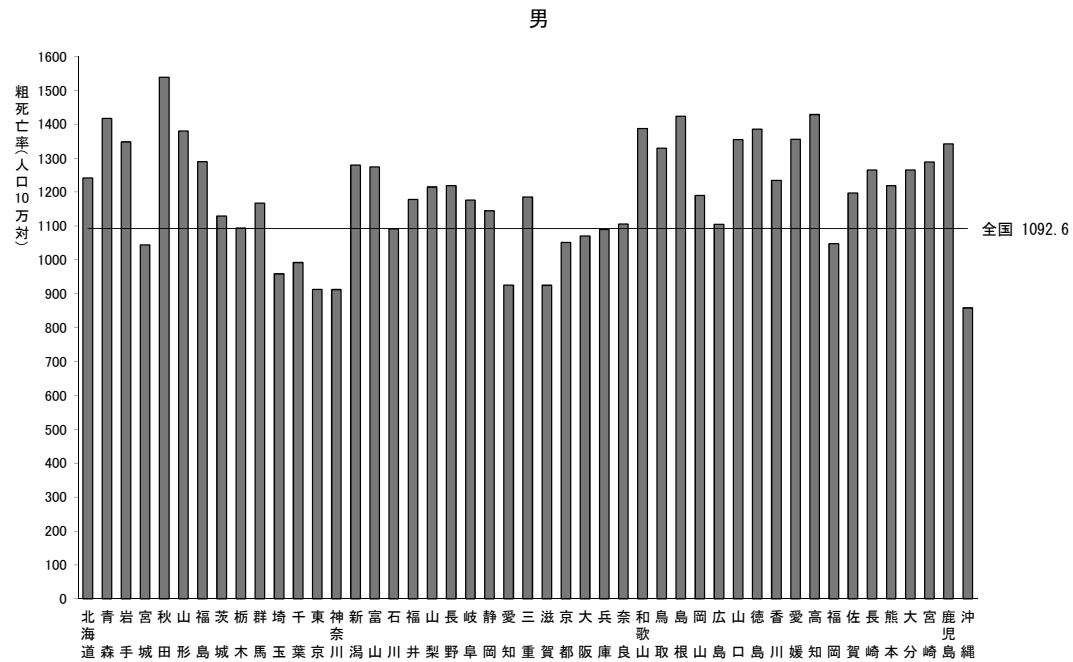
平成 27 年の年齢調整死亡率を都道府県別にみると、男は長野、滋賀、奈良、福井、京都等で低く、青森、秋田、岩手、和歌山、鳥取等で高くなっており、女は長野、島根、岡山、熊本、滋賀等で低く、青森、福島、茨城、栃木、和歌山等で高くなっている(図3-1)。

図3-1 都道府県別年齢調整死亡率 -平成 27 年-



平成 27 年の粗死亡率を都道府県別にみると、男は沖縄、神奈川、東京、滋賀、愛知等で低く、秋田、高知、島根、青森、和歌山等で高くなっており、女は沖縄、神奈川、埼玉、東京、愛知等で低く、秋田、島根、高知、山形、山口等で高くなっている(図3-2)。

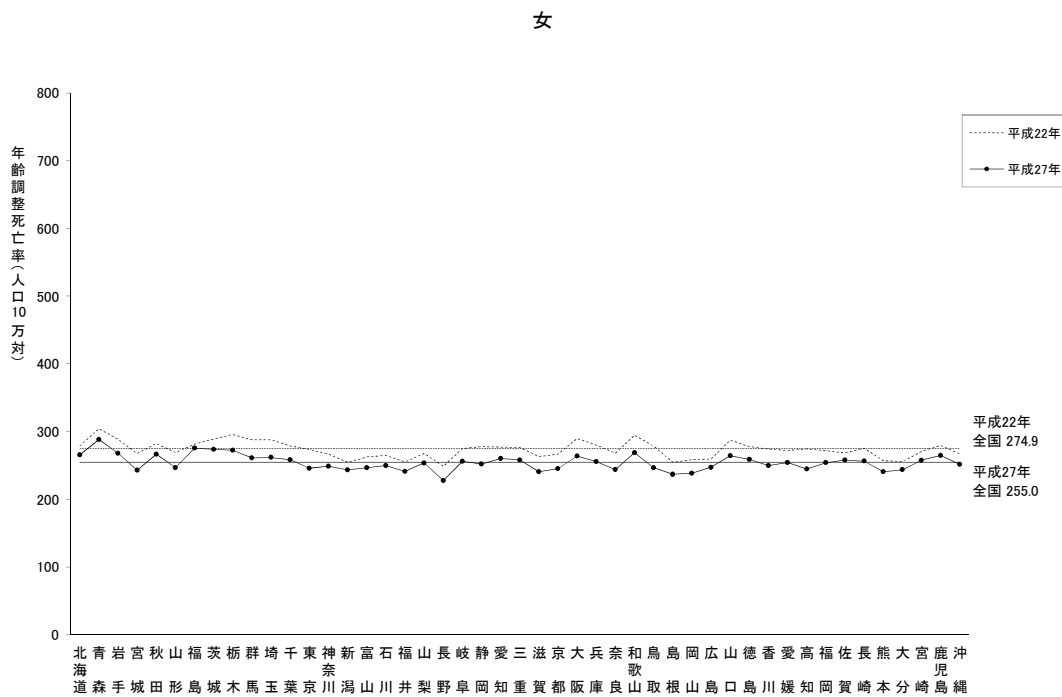
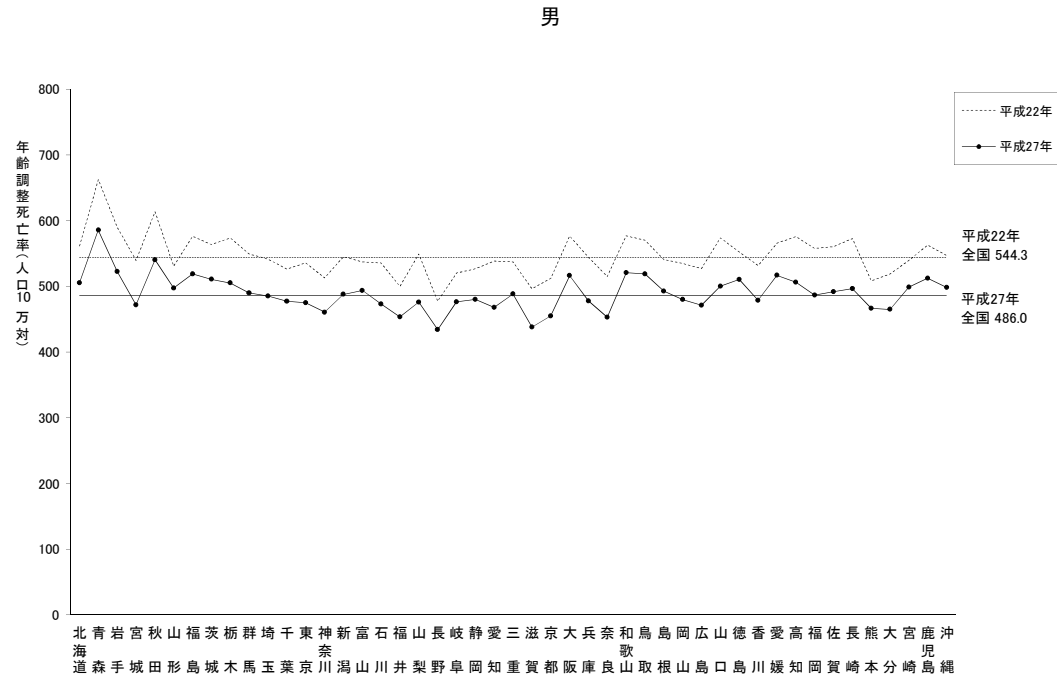
図3-2 都道府県別粗死亡率 -平成 27 年-



(3) 都道府県別にみた死亡の状況の推移

平成27年の年齢調整死亡率を平成22年と比較すると、男女とも全都道府県で低下しているが、都道府県別の傾向に大きな変化はなく、男女とも長野が最も低く、青森が最も高くなっている(図4)。

図4 都道府県別年齢調整死亡率 ー平成22年・27年ー



都道府県別年齢調整死亡率を時系列でみると、昭和 35 年は男女とも秋田、昭和 55 年は男では青森、女では栃木、平成7年は阪神・淡路大震災の影響により男女とも兵庫、平成 27 年は男女とも青森が最も高くなっている。

また、男女とも昭和 35 年には西日本に年齢調整死亡率の低い都道府県が多く、東日本に高い都道府県が多くなっていたが、近年は年齢調整死亡率の全国的な低下に伴って、地域差は小さくなってきている。(図5)

その理由の一つとして、東高西低傾向のある脳血管疾患の死亡率が、全国的に大幅に低下し、差が小さくなってきていることがあげられる。

図5 都道府県別年齢調整死亡率の推移

